

宝塚警察署長の

宝塚探訪

～つれづれなるままに・・・ No.8～

御朱印集め その2

宝塚教育委員会が発行している資料などによると、宝塚市内に200基を超える古墳が確認されています。

最も古いものだと、“有茎尖頭器（ゆうけいせんとうき）”と呼ばれる縄文時代草創期の槍の穂先が出土するなど、約1万年前から狩りをしながら生活していた人々がいたそうです。

そういった太古の時代からこの宝塚の地で人々が脈々と生活を営んできた歴史とともに、多くの神社・仏閣が創建され現在に至っています。

個人的に“御朱印集め”を趣味としており、宝塚警察署長として赴任してきてすぐに、清荒神清澄寺と大本山中山寺に御朱印を貰いに行きました。

その後しばらく御朱印集めから遠ざかっていたのですが、ウォーキングが心地よい季節になりましたので、地図を片手に警察署から仁川方面に散策に出かけてみました。

警察署を出てすぐ西にある“川面神社（かわもじんじゃ）”を訪れました。



この神社は“出世神社”と呼ばれているらしく、近くにある宝塚歌劇生や宝塚音楽学校生に親しまれているようです。

私が訪問した時は、あいにく社務所が閉まっており、誰もいなかったので御朱印を貰うことはできませんでしたが、出世の祈願をしてきました（笑）

川面神社を出て、次は“伊和志津神社”に向かいました。



伊和志津神社には、戦国武将・加藤清正が、朝鮮出兵の時“虎”を生け捕りにして連れて帰り、広い境内を持つ伊和志津神社の藪で飼ったという言い伝えがあるようです。

素戔鳴尊（すさのおのみこと）をご祭神としており、古くから宝塚の総鎮守として宝塚市民に親しまれています。

伊和志津神社を出て南方面に進路を取り、次に“宝塚神社”へ向かうことにしました。



宝塚神社は、昭和41年に“日吉神社”に“素戔鳴神社”を合祀して“宝塚神社”と改めたようです。

“日吉の神”は山の神、“素戔鳴の神”は田の神と言うことで、“五穀豊穰”がお祈りされてきたとのことでした。

宝塚神社の御朱印は、書置きと呼ばれるもので、すべて事前に書かれており、写真にある右側の御朱印に描かれている七福神の顔も一枚一枚手書きされているとお聞きしました。

この後、阪急電車今津線に沿って南に歩き、小林地区を經由して“鹿塩熊野

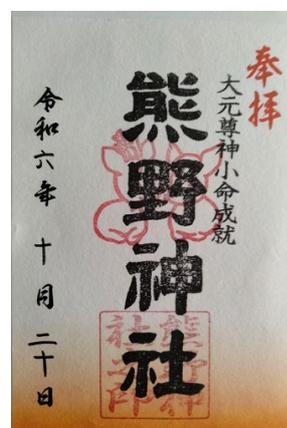
神社（かしおくまのじんじゃ）”を目指しました。

余談ですが、宝塚市にある“小林”と言う地名は、“こばやし”ではなく“おばやし”と読みます。

一説には、宝塚歌劇の祖と言われている“小林一三”氏を宝塚市民が敬う気持ちが強いつから、軽々に「こばやし」と言う言葉を口にしたくなかつたので、小林地区の呼び名を「おばやし」にしたという都市伝説もあるようです。

まあ、歴史的には小林一三氏が宝塚歌劇を開く前から“おばやし”と呼んだようですが…

それでは“鹿塩熊野神社”に話を戻します。



訪問した日は、たまたま地区の“こども秋祭り”と銘打って境内に様々な露店が出ており、大勢のこども達で溢れていました。

この神社は“鹿の鏡井戸”と呼ばれ、悲しい伝説の舞台になった神社と言ひ伝えられています。

その伝説とは、「昔奈良春日大社から一年に一度、牡鹿と牝鹿がお供え物を背負って参拝に訪れるならわしがあったようですが、ある年参拝に来ていた牝鹿がいなくなり、牡鹿が探し回っていた時、井戸の水面に映った自分の姿を探し求めている牝鹿と見誤り、助けるために井戸に飛び込んでしまった。」と言う話のようです。（この伝説に関係する施設は何もないそうです。）

そんな伝説も残る鹿塩熊野神社ですが、ご祭神は伊邪那美命、火加具土神、天照大神、須佐之男命、厄除け八幡之神のようです。

この4社を巡った後、署員から教えてもらった阪急仁川駅前にある美味しいと評判のラーメン屋でお腹を満たして帰りました。